

Title	「東京名所鑑」の慶應義塾
Sub Title	
Author	會田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1954
Jtitle	史学 Vol.27, No.2/3 (1954. 5) ,p.80(178)- 80(178)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應義塾史研究特輯 餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19540500-0080">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19540500-0080</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

且つ日本の社會に於ては養子、後妻、後夫、繼母、異父母兄弟姉妹を認めざる可らざるに、父母の他に父母なく子女の他に子女なしと云ふは、社會の狀態に適合せざるものにして、兄弟の敬愛を説かざるも不都合なり。然かのみならず國民の修身に關しては教育の勅語あるに、修身要領が一言これに及ばざるは失體と云はざるを得ず」(石河幹明「福澤諭吉傳」第四卷三二六頁)と述べて、まさに福澤の立場と正反對の立場を表明して居つた。このことからしても、福澤の考え方が如何なるものであつたかどうかゞえらると思ふ。(廿八、十、十五)

(本稿を草するに當り、本塾文學部中山一義助教授より多大の御教示を與えられた。記して謝意を表します。)

### 「東京名所鑑」の慶應義塾

慶應義塾は創立者福澤諭吉の聲望はもとより、その隆昌と、その養成せる人材の豊かさにおいて、明治年間つとにすぐれた私學としての世評が高かつた。

ここに、その一例として、明治二十五年九月出版の相澤求著「東京名所鑑」卷之中(三十三―四丁)所載の記事を紹介してみよう。

○慶應義塾 三田二丁目にあり慶應初年福澤諭吉氏三田の高台に塾舎を開て洋學を教授せし所の私立學校にして二十有餘年終始一の如く學生を養成する數千人の多に及へり現今官に奉

職し或ハ會社の長となり或ハ國會議員に當撰せらるゝ者此門より出る多し廿年講堂を新築して煉化造とす學科ハ大學部を分て理財文學法律とし修業年限三年普通科修業年限五年現時生徒の數一千四百三十八名月謝金壹圓七拾貳錢東脩三圓塾長は小幡篤二郎氏教員五十一名廿三年七月宮内省より多年人材を教育し奎運を幫助す其功勞尠からざる段奇特に思召され金千圓を下賜せらる

こと國の學の道を敷島のやまとにしきてをしへそめたり

相澤 求

(會田倉吉)